



なぜこんな私が立たされて 戦ってきたのだろうか

横田早紀江

みなさん、こんにちは。コロナがなかなか終息しないで困っている毎日ですが、そのような中、拉致被害者救出のために、心を合わせ祈ってくださってありがとうございます。もう何年も何年もこうして祈っていただいて、何もできない私ですけど、肉体的にも精神的にも支えられ、今日まで生かされてきました。煙のように消えてしまった子どもと再会するために何とかしたい、「もう一度でいいから会いたい」という思いで主人と共に祈ってきましたが、主人はそれがかかわらず亡くなってしまい残念でしかたありません。新潟時代は、「なんで自分だけ楽になって、神様といれば平安だなどと言っているのか。僕にはそんなことはできない」。どんなにめぐみはつらい思いをしているか、という気持ちがあったのでしょうか。そう言っていた主人がいつしか変えられてきて、私と一緒に教会の礼拝に来てくれるようになりました。私は黙って、主人が救われるように祈っていただけです。それはやはり、私自身がみことばから衝撃を受け、信じる者とされたからです。主人も、聖書によってか、人のことばによ

てか、どこかではっとさせられる瞬間があり、人間の普通の考えだけではだめなのだということが気がつくようになるだろうと思っていました(滋さんはその後、主を受け入れ、2017年11月に受洗した)。主人はやがて寿命が尽きる時がきて、天に導かれていったと家族皆が感じる、感謝な最期を見送らせていただきました。

私たちは1400回もの講演に出かけ、石垣島から北海道まで全国隅々を回りました。講演といっても自分たちの経験を話すだけなのですが、私は頼りない者なのに、「なぜこんな者が立たされて、こんなこと(救出活動の先頭に立って戦う)をさせているのですか?」と、神様に文句を言いましたが、そのような中で鍛えられました。本当にあの時のどうにもならないところから^は遣い上らせていただいて、みなさんの祈りの中で守られながら、自分だけが活着ているのではない、どうしてこれほど愛されているのかと感謝でいっぱいです。85歳になった今も元気に歩けますし、家の中のことも自分でやっています。「恐れるな。わたしがあなたの神である



から」とおっしゃってくださる神様のことばを忘れないよう、自分に言い聞かせています。

拉致問題はまだ解決への見通しが見つからない難しい状況で、北朝鮮に関するニュース番組には釘づけになります。知らないとまったく動きがわからなくなってしまいます。コロナのこともあって政府は動いていませんし、北朝鮮の中は見えませんが、大変なことになっていると思われれます。向こうが望んでくれない限り、話し合いもできないわけ。どうしたら話し合いにもっていけるのか。菅首相にお会いした時、「何とか話し合いをしてください」とお願いしましたが、そのチャンスがなかなかこないのが不安な思いになります。何とかよい方向にいて、日本中が喜びに沸いて、めぐみたちがタラップを降りて帰国する日がくるようにと祈るものです。

(2021年7月15日第205回祈り会)